

えっ？ ジャズの CBS/ソニー国内盤がオリジナル盤？

そうなんです！ もうここまでくると殆どオタクの世界ですが、大変珍しい事です。  
しかもアルバムはマイルス・戴维斯・グループの名演奏・名盤といってもよいもの  
から本当に驚きました。

Columbia 時代のマイルスのいわばアウェイのライブについては Columbia の正規録音部隊  
が出動することはまずありません。アウェイでのライブ・アルバムについては基本的に  
現地のレコード会社なり放送局が録音を担当します。

しかし今回の舞台は N.Y. から陸路千キロのシカゴ「Plugged Nickel」、時は 1965 年 12 月  
22,23 日です。十分 Columbia の正規部隊が出動出来る範囲です。  
実際に録音を行ったのはこの正規軍でした。しかし何故か Columbia がこのライブ録音を  
アルバムとして出せなかったからややこしい事態となりました。  
演奏内容から判断するとマイルスがアルバムとして出すことに拒否権を発動したからだ  
と推測されます。

正確なアルバム名ですが：

CBS/SONY 盤は“Miles Davis At Plugged Nickel”で Vol.1 が 18AP-2067、Vol.2 が  
18AP-2068 です。

なお、このアルバムが出た後、CBS/SONY から再発盤が出ていて、それぞれ 23AP-2567、  
23AP-2568 です。

注 1) ソニーの AP シリーズですが、18AP、20AP、23AP、28AP などがあり、数字は  
価格を示しています。例えば 18AP は ¥1,800 となります。

また 20AP シリーズは 1979 年のリリース、28AP シリーズは 1983 年のリリースと  
なっていますので、18AP シリーズは少なくとも 1979 年以前、大体 1975 年頃の  
リリースかもしれません。

さらに AP シリーズは、それ以前の SONP+ 5 桁シリーズとは異なり、デジタル  
マスターを使用しているとのこと。

注 2) CBS/SONY (=ソニーと CBS の合弁会社) の設立は 1968 年です。

一方の Columbia 盤ですが、「CONTEMPORARY MASTERS SERIES」の“Miles Davis  
At The Plugged Nickel “ (CS 38266) という 2 枚組で 1982 年にリリースされています。

確かに CBS/SONY 盤の方が早くリリースされているということになります。

アルバムの内容、曲順などは両者全く同じですが、Columbia 盤の Side2 の'THEME'が CBS/SONY 盤では'Bye Bye (theme)' という名称になっており、これが Vol.2 の最後にも入っています。

手元には Columbia 盤の CS38266 がありますが、これはてっきり Columbia 自身が出した再発盤だと思っていました。

ネットでざっと調べてみますと、コンディションの良い中古盤の価格は 18AP-2067 で ¥1,300 前後、23AP-2567 で ¥2,500 位でした。

繰り返しになりますが、ソニーの AP シリーズの盤が実はオリジナル盤だという事は大変珍しい。中古盤の価格は高くないし数も出ているはずですから、マイルスのファンの方は探してみても如何でしょうか。

肝心のサウンドですが、(後記のように) REMIX が同一人物なので同じサウンドかと思いきや両者の帯域バランスは異なっています。

CBS/SONY 盤では低域が抑えられ中高域が相対的に勝っています。個人的には Columbia 盤に軍配を上げます。元々 CBS/SONY 盤にはこうした傾向があります。実に惜しい事です。

付1 18AP-2067, 2068 がオリジナル盤となった背景

ソニーは CBS と組んだ 1968 年以降、Columbia でマイルスの未発表音源を探し回ったのではないのでしょうか。またマイルスが来日した際には Columbia やマイルスの意向に反してでもライブ・アルバムの制作・発売を企画したに違いありません。マイルスの作品は日本で必ず売れるからです。

その成果？が 1969 年の“IN TOKYO”であり、1975 年の“AGHARTA”“PANGAEA”です。そしてこの“PLUGGED NICKEL”ではないのでしょうか。

実際にこのことを裏付けるような記述が 18AP-2067 の解説文にあります。

(以下は児山紀芳氏の解説の抜粋)

「たまたま CBS・ソニーが米本社にマイルス・デイビスの未発表演奏の LP 化計画を提案し、未発表テープの発掘、送付を要請したところ、幸いにも相当量のテープが届き、その中に幻の「プラグド・ニッケル」セッションの全演奏が加えられてあった。

(同解説中で以下は米ダウン・ビート誌のニュース欄から、とのこと)

1965 年 12 月 - マイルス・デイビスは 12 月 21 日から 2 週間シカゴの「プラグド・ニッケル」に出演中。CBS コロムビアでは、21, 22, 23 日の演奏を実況録音した。

\*CBS・ソニー注=テオ・マセロの話によると 21 日は事故があつて、テープを回さなかったとのことである。

\*筆者注=本アルバム「プラグド・ニッケルのマイルス・デイビス」(Vol.1)には、12 月 23 日の演奏の一部が収められている。」

付2 両者のジャケット記載データの比較

CBS/ソニー盤 (18AP-2067)

EXECUTIVE PRODUCER: TEO MACERO

RECORDED LIVE AT: "Plugged Nickel," Chicago, December 23, 1965

REMIX ENGINEER: Tomoo Suzuki

FRONT COVER PHOTOGRAPHY: Thanks to SONY CORP.

MILES DAVIS PHOTOGRAPHY; Special Thanks to Swing Journal

COVER DESIGN: Shuichi Yoshida & Teruhisa Tajima

DIRECTED BY: KEIICHI NAKAMURA

Columbia 盤(CS 38266)

Produced by Teo Macero

Remixed by Tomoo Suzuki

Recorded live at The Plugged Nickel Chicago, December 22 and 23, 1965

Recordings are courtesy of CBS/Sony

Executive Producers of the Contemporary Masters Series:

Jim Fishel and Dr. George Butler

Mastered by Gastwirt at CBS Recording Studios, New York on the CBS

DisComputer™ System